「日本一住みやすい釧路」

釧路あすなろクラブ第3部会から

―下―

「日本一住みやすい釧路」と大胆宣言した経済研修団体「釧路あすなろクラブ第3部会（及川雅順部会長）の発表があった5月例会の模様を21日付に続けてリポートする。2006年の気象データや自然など環境条件を根拠に釧路の住みやすさを見つけ出し紹介するユニークな意見が飛び交った。

（木村啓司）

寒さが厳しいという指摘については「住環境は防寒設備が整っている」、「冬のイベントも豊富で積極的に外出し、冷えた体は豊富な温泉で温められる」といった提言が出た。福田紀幸同クラブ会長も「ゴルフ場に車で通うことができて、温泉に入れる場所を探したら、塘路湖の別荘地が該当した」など、釧路に移住した友人の話を引き合いに出した。確かに車で1―2時間圏内にこれだけ泉質の異なる温泉が湧いている地域は全国でも珍しい。釧路は保養地としても短期的な滞在者を呼び込める素地は十分備えている。

宣伝次第で、釧路の展望は明るく開けそうだ。今回の発表から、釧路の住民が率先して対外的に釧路の明るいイメージを伝えていく必要性が分かった。まずは暗いイメージカラーをさわやかな湿原のグリーンに切り替えることから始めてはいかがだろうか。

釧路の色

湿原の〝緑〟を連想

他の都市の住民には明るいイメージ定着

日本色彩研究所の調べによると、釧路と聞いて連想するイメージカラーは、という質問に対し、釧路の人がグレーなどモノトーンの色を挙げたのに対し、全国の他都市で調べた際は、緑を挙げた人が50㌫を占めたというデータがある。理由は「釧路湿原」を連想したためだ。

このことから全国では「湿原の釧路」がイメージで先行しているためとえそうだ。

北海道を移住の地に選ぶ志向が増える中、道内の他の地域と釧路の差別化も必要となる。そんな中、釧路の長所として冬の少雪が挙げられた。札幌と比較すれば別表の通り一目瞭然で、釧路なら除雪の煩わしさを気にする必要がない。

考えられるという。他都市に住んでいる人には、〝ドンヨリ〟した霧のイメージより湿原の緑が定着しているという事実をデータで示す好例ともいえそうだ。

06年の月別降雪日数

月	釧路	札幌	東京
1	9	30	5
2	12	23	3
3	13	26	2
4	14	12	0
5	0	0	0
省略			
10	0	0	0
11	0	12	0
12	2	27	0
計	50	130	10